第 47 号

ミクロネシア カセレーリエ

平成２９年1月１日

ＮＰＯミクロネシア振興協会ニュース

Non-Profit- Organization　Association For Micronesian Development News

目次

1 新世界遺産・ナンマトル遺跡(特集連載　4回シリーズのその2) ……
特別寄稿: ＮＰＯ法人パシフィカ・ルネサンス代表理事　長岡拓也氏（ＡＭＤ顧問）
2．ミクロネシアからの寄稿と人物紹介
3．ミクロネシア連邦とパラオ共和国を訪れた人々……ＮＰＯ ＡＭＤ事務局長　川嶋正和
4．私たちのこれからの予定　訪問計画　　＊ナンマトール遺跡の写真展のお知らせ

新世界遺産・ナンマトル遺跡　その２

ＮＰＯ法人パシフィカ・ルネサンス
代表理事　長岡拓也（ＡＭＤ顧問）

古代のポーンペイ島には、太平洋の他の島々と同じように文字が存在せず、自分達の先祖の歴史は口承で代々語り継いでいました。こうした島々の考古学研究では、伝承が考古学のデータを理解する上で重要な資料となっています。今回は、考古学と伝承を組み合せて、ポーンペイの歴史の中でのナンマトル遺跡の位置づけについて書きます。

ポーンペイ島の歴史は、伝承によると4 つの時期に分かれ、考古学研究の成果により以下のような年代を大まかに当てはめることができます：「人々の世」（紀元１年～１０００年）、「シャウテウル王の世」（紀元１０００年～１５００年）、「最高首長ナーンマルキの世」（紀元１５００年～１８００年）、「外国人の世」（紀元１８００年～現在）。

伝承によると、ポーンペイ島は、南から航海してきたシャプキニに率いられたカヌーによって発見されたと言われています（注１）。第１の世には、さまざまな方向からの6 回の航海により、いろいろな文物や作物が島にもたらされ、文化的に豊かになったと語られます。

最近の考古学研究の成果によると、ポーンペイ島へは約２０００年前にメラネシアの南東ソロモン諸島・北バヌアツ地域から最初の人々がやってきたと考えられ（注２）、シャプキニのカヌーが南から来たという伝承と一致します。ナンマトル遺跡の発掘では、人工島の下から、この最古期の土器や貝製品などの遺物が出土しており、巨石遺跡の建設以前のこの地域が礁原の浅瀬か砂州だった頃に居住が始まりました。ナンマトルでは、紀元５００年頃から小規模な人工島の築造が始まりますが、その背景や性格についてはよくわかっていません。

第２の世は、西の海のかなたから２人の兄弟、オロシーパとオロショーパに引き連れられたグループが到来し、幕を開けます。彼らは祭祀場の建設を島の数カ所で失敗した後、島中の人々の協力を得て、ナンマトルを造り上げました。兄の死後、弟が初代シャウテウル王になり、ナンマトルを居城として島を治めました。人工島建設の増加を示す年代から、シャウテレウル王朝は紀元１０００年頃に成立し、５００年間続いたと考えられます。

伝承によるナンマトルの建設（ポーンペイ州教育局１９９６）

伝承では、王朝の成立直後からのシャウテレウル王達は過酷な悪政を敷いたと語られます。最後の王によって牢に囚われた島の最高神である雷神ナーンシャペは、東の海のかなたへ逃れ、そこで子供をもうけます。イショケレケルと名付けられたその子供が、のちに従者を引き連れてポーンペイへ戻り、シャウテウル王朝を滅ぼしました。ナ

〒273-0864千葉県船橋市西船2-27-23 / 2-27-23nishifuna.funabashi-City.Chiba273-0864,JAPAN
Tel. 047-432-0300 Fax.047-423-4273　E-mail. amd.kmzero@gmail.com

第 47 号

ミクロネシア カセレーリエ

平成２９年1月１日

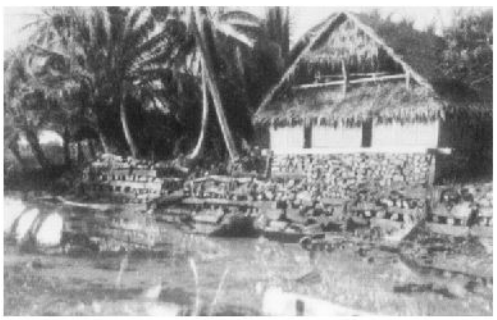
ＮＰＯミクロネシア振興協会ニュース

Non-Profit- Organization　Association For Micronesian Development News

ンマトル遺跡では、巨石建設は紀元１５００年頃に終焉を迎え、王朝の滅亡の時期を示すと考えられます。

こうしてイショケレケルは、シャウテレウル王の圧政から人々を解放しましたが、島全体を掌握することはできず、ナンマトルを居城として、ポーンペイの３分国の一つであるマトレニーム国を治める初代の最高首長ナーンマルキ（注３）になり、第３の世が始まります。その後、ポーンペイ島の各地域は独立し始め、第４の世が始まる19 世紀には現在の５首長国に分裂していました。

シャウテレウル王朝滅亡後、ナンマトルは、マトレニーム国のナーンマルキによる居住と宗教的な儀式に利用され、小規模な住居遺構の建設が続けられただけで、欧米人が島を訪れ始める１９世紀にはほとんど放棄されていました。そのため２０世紀になって科学的な調査が行われるまで、遺跡は失われた過去の文明の痕跡ではないか、外来民族が造ったのではないかと訪問者の興味と好奇心の的となりました。



１９００年代初頭にナンマトルにあったマトレニーム国の高位首長の祭宴堂

（Hambruch １９３６）

ナントワス島にあるナンマトルの中で最大の石の一つ（推定約３０トン）

（注１）伝承によると、当時島はサンゴ礁の浅瀬があっただけで、呪術を使って神聖なる島を築き上げました。このためポーンペイという島の名前には、「石積みの祭壇の上」という意味があります。

（注２）ミクロネシア人の起原は、約５０００年前の台湾または中国南部にあり、東南アジア島嶼部を経由して西から西ミクロネシアへ、メラネシアから東ミクロネシアへ植民したと考えられます。

（注３）ナーンマルキは、特定の母系氏族によって継承され、５００年たった今でもポーンペイ島の首長国を統治しています。

（この稿終わり　つづく）

ミクロネシアからの寄稿と人物紹介

１．当ミクロネシア振興協会のミクロネシア支部の会長・秋永好二氏の自己紹介文

日本の皆さん、おめでとうございます

２．ミクロネシア連邦唯一の新聞「Kaselehlie Press」の Editor Mr.Bill Jaynes の寄稿とポンペイの写真を掲載します

〒273-0864千葉県船橋市西船2-27-23 / 2-27-23nishifuna.funabashi-City.Chiba273-0864,JAPAN
Tel. 047-432-0300 Fax.047-423-4273　E-mail. amd.kmzero@gmail.com